第３回　子吉川水系河川整備学識者懇談会　議事概要

開催日：平成２７年　１月２７日（火）
開催時間：１５：００～１６：００
開催場所：秋田河川国道事務所

参加者

氏　　名	所属等
石井　千万太郎	元秋田大学　准教授
井上　正鉄	秋田大学　教育文化学部　教授
小笠原　暠	秋田大学　名誉教授
金　主鉉	秋田工業高等専門学校　環境都市工学科　准教授
杉山　秀樹	NPO 法人　秋田水生生物保全協会　理事長
松冨　英夫	秋田大学大学院　工学資源学研究科　教授 附属地域防災力研究センター長
長谷部　誠	由利本荘市長（代理：建設管理課長　佐々木藤悦）

※欠席：嶋崎准教授（秋田県立大学　システム科学技術学部経営システム工学科）
永吉准教授（秋田県立大学　生物資源科学部アグリビジネス学科）

【議事概要】

① 子吉川水系河川整備計画の点検～事業の進捗状況～について

② 意見交換

●委員

・Ｐ１７河川水辺の国勢調査を毎年実施しておりますが、成果を利用しないともったいないと思います。子吉川のシンボルを考えてみるとアユ、サクラマス、カワヤツメとか最近特に地元の人にとってはモクズガニでのイベント等も開催しており、そういった意味では、モクズガニの分布や行動範囲生態を把握しているものでしょうか？

→事務局

・モクズガニの範囲については、河川水辺の国勢調査の中で直轄管理区間内で調査しております。最上流端が２４ｋになりますがそこでは、モクズガニ漁とウグイ釣りが

行われていると記載されております。

●委員

・モクズガニについて大きさや、増加減少傾向なのか等必要に応じて積極的に調査をお願いしたい。

→事務局

・子吉川については川の生態系が非常に豊かで、また、昔からの漁も伝統的に継承されている地域と認識しておりますので、その豊かさの指標を我々も由利本荘市と一緒になって子吉川フェア等様々なイベントで情報を発信していきたいと思います。

また、保全保護の観点にも注意しながら情報発信していきたいと思います。

●委員

・鳥海ダムの方には遡上していないのでしょうか？

→事務局

・直轄管理区間２４ｋｍ上流に河川横断工作物があるためそこで遡上が止められているのかと感じております。秋田県等にデータを確認しながらその結果
も踏まえ情報発信していきたいと思います。

●委員

・平成１７年の調査結果では、クロベンケイガニも河口から６ｋｍ付近で沢山生息が確認されておりました。また、ヒラマキガイやシラウオ、河口域は生物の重要な事がわかっておりますので、今後の河道掘削、築堤等で河川環境が変わって行く事も考えられますのでモニタリングを行いながら進める事も考えられるのではないでしょうか。

→事務局

・個別に環境の先生方に相談しながら対応していきたいと思います。

●委員

・資料のＰ11、P12 の「堤防の安全性評価」のところですが、この箇所は河道のどの

部分なのか、河道の変遷はどうだったのか等把握する意味で平面図をあわせて整理してほしいと思います。狭い範囲ではなく広い範囲で整理する必要があると思います。

→事務局

・今回は一部分での報告をしておりましたが、平面図、治水地形分類図等広い範囲のものも含めて「堤防技術研究委員会」で報告して了承をいただいておりますので既にそう言った図面はあります。

●座長

・Ｐ１７で貴重な樹木に対しては、伐採防止をしているとありますが、貴重な樹木だけを残すことで貴重な樹木に直接洪水があたることになりますが樹木は大丈夫なのでしょうか。

→事務局

・先生のおっしゃるとおり上流の緩衝材が無くなった状態で貴重な樹木を保全しているので今後の出水時の状況を確認しながら今後モニタリングして行きたいと思います。

●委員

・地球温暖化に関する件で、将来の雨量は東北では増え、降雪は半分くらいになると予想されておりますが、国全体として河川温暖化対策をどう考えているか常山調査官から教えて頂きたい。

→事務局

・本省の方では減災防災に関する新たなステージとして委員会を設けて対策を議論しているところです。新たなステージとは今までより多い雨、計画規模を越える雨にどう対応していくのかハードとソフトをあわせながら施策を本省の方で検討しており、３回目が実施され、「新たなステージ」に対応するための今後の検討の方向性について公表されたところです。

●委員

・河川文化を継承するような機会はこれまで国交省と一緒になってやってきましたが、昨年から河川協力団体の制度ができており、出来るだけ協力していただければと思っております。

→事務局

・我々も河川の使われ方をどのような形で次世代の子供達に伝えていくかは、これまでも場の提供として「水辺の楽校」「せせらぎ水路」等、親水公園などのハード的な整備をしてきましたが、ソフト整備として住民の方々が主体となるような形で河川の良さを継承出来るように、影ながら協力していけるような対応をしていきたいと思います。

●座長

・P7の全体事業費には３３０億円と記載されておりますが、整備計画には鳥海ダムも含まれている計画になっておりますので、この書きぶりですと全体事業費３３０億円の中に鳥海ダム分も含まれていると解釈されますので表現を見直すべきではないでしょうか。

　また、Ｐ１０河道掘削のところで再堆積を抑制させる取り組みでスライド掘削を実施しておりますが、他の河川での実績等があれば教えていただきたい。

→事務局

・ご指摘のとおり全体事業３３０億円にはダムは含まれていないものですので、全体事業費の脇に（）書きで河川分のみという表現に直したいと思います。

・スライド掘削の先行事例としては、九州の遠賀川で船底型河道で施工しております。堆積したかについては今のところ施工後大きな出水もない事もあり、再堆積は無いと聞いております。現在、モニタリングをしている段階です。東北地整管内では、子吉川がスライド掘削の最初となるのでモニタリングをしながら再堆積について検証をしていきたいと思います。

●委員

・国交省には日頃洪水対応や洪水対策で支援いただいておりますので、市としても国交省の事業に対し協力できるものがあれば引き続き協力していきたいと思ってございます。

以上